

社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせるための取組
～コンソーシアムの構築と関係機関との連携による課題解決に向けた教育実践～
北海道静内農業高等学校 学級数6 (校長 佐藤 裕二)

1 はじめに

我が国では、現在、急速な人口減少や少子高齢化、また、地方では地域経済の縮小なども進んでおり、地方の活力を取り戻すためにも地域創生に国を挙げて取り組む必要がある。

本道においても、全国を上回るスピードで人口減少が進み、人手不足への対応と地域創生が喫緊の課題となっており、地域産業の担い手を育成する高等学校に対する期待は、今後も益々高まっていくと考えられる。特に高等学校においては、国における地域創生の施策の方向性や、「北海道総合教育大綱」、「北海道教育推進計画」等を踏まえ、具体的に取組まなければならない。

このようなことから、本校は、平成30年より「高等学校OPENプロジェクト～北海道ふるさと・みらい創生推進事業～」の研究指定校として、子どもたちの学びと地域創生の核となる「魅力ある学校」づくりに取り組んできた。



2 地域の状況

日高管内の産業の中心は農業であり、国内生産頭数の約80% (H27：5,427頭) を占める全国一の軽種馬生産をはじめ、稲作、施設園芸や酪農、肉用牛生産などが行われている。近年、中央・地方競馬の売上げや市場での取引価格は回復傾向にあるものの、生産頭数、飼養農家戸数は減少傾向にある。このため、軽種場農家の経営体質の強化、生産育成技術の向上などによる強い馬づくりや、管内の気象・自然条件を活かした野菜・花の栽培等の導入や農業経営の複合化等を進めている。

3 本校の概要

本校は、優駿が育つ緑の牧場群と「日本の道百選」「さくら名所100選」「北海道遺産」などに選ばれ日本屈指の桜の名所として多くの人から親しまれる二十間道路桜並木に隣接したところに位置しており、50haの広大な敷地を有している。昭和53年に校訓「自尊独立」のもと、日高の農業や郷土のさらなる振興・発展に寄与できる人材育成を使命として開校し、平成16年の学科転換を経て、現在は食品科学科と生産科学科の2学科を設置し、時代の要請に応えながら、地域の特性を生かし、日高管内唯一の農業高校として、特色ある教育を展開している。特に、資源循環型農業や栽培・生産から加工・販売に至るフードシステムの確立、馬事教育、長期企業実習などをおし、専門的な知識や技術はもちろんのこと、コミュニケーション能力や課題解決能力、国際的視野の育成など、これからの社会で必要とされる力を育成する農業教育を展開している。

4 高等学校OPENプロジェクト～北海道ふるさと・みらい創生推進事業～

(1) 研究指定期間

平成30年度から令和2年度までの3年間

(2) 研究主題

「馬で地域の活性化～強い馬づくりと馬産地日高の魅力発信～」

(地域課題と高校に対するニーズ)

- | | | |
|-------------|---|---------------------------|
| ア 馬産業の従事者不足 | ⇒ | ア 専門性の高い学習を行い、馬産業の従事者を増やす |
| イ 馬の魅力のPR不足 | | イ 馬の魅力を高め、魅力発信を行う |

(3) 現状と課題

ア 強い馬づくり（専門性の高い学習を行い、馬産業の従事者を増やす）

強い競走馬を生産、育成するために重要な3要素は①血統・②栄養・③運動とされている。①血統に関しては、日本軽種馬協会との連携により種馬の選定、繁殖牝馬の直腸検査、受胎後の経過観察を授業の一環として実施し、生産馬の質や生徒の学習意欲が向上している。また、②栄養に関しても、競走馬栄養コンサルタントの服巻氏との連携により、放牧地の草地管理、飼料の栄養管理を授業の一環として実施し、生産馬の質や生徒の学習意欲が向上している。しかし、③運動についてはこれと違って措置をとっていなかった。また、これまでのセリで売却された生産馬は、育成牧場で体力不足により満足な調教ができず、強めの調教を行った際は、病気やケガを発症する。競走馬としてデビュー後は数戦で怪我により引退する馬が多かった。

イ 馬産地日高の魅力発信（馬の魅力を高め、魅力発信を行う）

日高地方は、古くから軽種馬産業で栄え、現在も日高の農業産出額の約6割を軽種馬生産が占めている。しかし、重要な基幹産業であるにも関わらず、生産頭数は年々減少を続けている。その原因は後継者不足による離農、軽種馬生産牧場の減少であり、平成28年度の離農理由の調査では、後継者不在によるものが全体の6割と、離農の一番の理由は担い手不足である。また、後継者がいない農家329戸のうち約半数の従事者の年齢が、60代以上であることから、軽種馬生産の規模が大きく縮小する恐れがあった。



(4) 研究の目的と目標

(研究目的)

全国有数の馬産地の教育力を活かし、地域の魅力を知り、その魅力を発信するため、自ら考え、課題を解決する資質・能力を身に付ける。

(研究目標)

地域課題である馬産業の後継者不足および全国有数の馬産地としての魅力を向上させ、地域の馬文化を学び、馬産業を支える人材の育成を目指す。

(5) 研究段階

- 1年目 調査や計画した事業の実践
- 2年目 計画した事業の実践と結果や成果の分析
- 3年目 計画した事業の実践と分析結果の報告及び情報発信

(6) 研究推進のためのコンソーシアム（地域みらい連携会議）の構築

※本校教育振興会を母体にした組織

所属・職名	氏名	専門分野等
J A しずない代表理事組合長 (本校教育振興会 会長)	西 村 和 夫	地域産業
日本軽種馬協会静内種馬場場長 (本校教育振興会 幹事)	遊 佐 繁 基	軽種馬生産技術指導
有限会社ホースカジマクリニック代表取締役 (本校教育振興会 理事)	中 島 滋	獣医・馬づくりの指導助言
新ひだか町総務部まちづくり推進課課長 (本校教育振興会 顧問代理)	中 村 英 貴	各種事業の連絡調整

(7) 研究内容

- ア 基本的な馬の管理技術の習得のため、牧場及び関係機関での講義及び実習を行う。
- イ 強い馬づくりのため、日本軽種馬協会、JRA日高育成牧場と連携し、本校の生産馬のセリ上場を目標とし、繁殖育成技術を習得する。
- ウ 肢蹄管理及び調教技術を学ぶ。
- エ 乗馬技術向上のため、外部講師を招いての技術指導やライディングヒルズ静内での乗馬実習を行う。また、障がい者乗馬交流を通して、安全な乗馬指導方法を習得する。
- オ 町内の小学校で馬の魅力に触れる機会を提供するため、高校生が教師役となり、小学生に対して授業を行う。
- カ 新ひだか町役場と連携し町内外の小中学生に馬の魅力を伝えるイベント（うまキッズ）を行う。

5 本事業の成果

(1) 強い馬づくり（専門性の高い学習を行い、馬産業の従事者を増やす）

ア 課題解決に向けて

強い競走馬を育成するためには、セリに上場するまでの0～1歳馬時に十分な運動をし、基礎体力を構築していなければ、満足のいく調教ができず、競走馬としてデビューしても勝負にならないのではと考えた。そこで「レースで活躍できる丈夫な強い馬づくり」を目標に、日本中央競馬界及び日本軽種馬協会の指導のもと、GPSを用いた育成馬の運動量調査と改善に取り組むこととした。そこで日本中央競馬会で提示している2歳馬までの放牧時に必要な運動量として「毎時1キロメートルの運動」という指標があり、調査の結果、放牧するだけでは指標の運動量に達しておらず、慢性的な運動不足であることが分かった。

○3年間の取組状況（生産馬の比較）

生年・幼名・性別	放牧時の運動量	放牧以外の運動負荷	セリ販売価格	競走馬名 戦績
H29・叶夢・牝 (かなめ)	未実施	未実施	270万円 (税別)	ユメノマクアケ 3戦0勝(引退)
H30・桜翔・牡 (はると)	0.83km/h	未実施	340万円 (税別)	トミケンハルト 1戦0勝(現役)
R元・健翔・牡 (けんとう)	0.89km/h	引き運動(1km/h) 放牧馬の変更	2500万円 (税別)	未定 デビュー前

○セリ売却後の状況

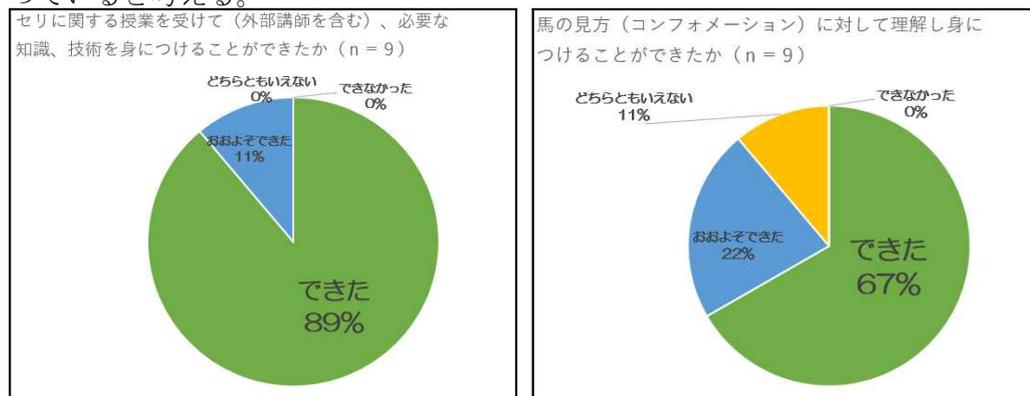
生年・幼名	育成牧場への聞き取り調査で分かったこと
H29・叶夢	体が弱く冬季の夜間放牧で発熱、体重が減少、調教が3ヶ月以上遅れた。
H30・桜翔	当初は少し体が弱く、乗り始め頃は肢に熱を持ち腫れたりしていた。
R2・健翔	体は丈夫。現段階の調教は耐えられる。早めに乗ることができた。

このことから、セリに上場するまでに十分な運動をし、基礎体力を構築していなければ、満足のいく調教ができないことがわかった。

イ 生徒への成果（セリ後にとった授業アンケートより）

生産科学科3年生馬コースを対象に実施したアンケート調査では、「セリに関する知識・技術を身に付けることができたか」という問いに、約9割の生徒が「できた」と回答し残りの約1割の生徒についても「おおよそできた」と回答している。このことから、馬産業従事者としての資質・能力の向上につながっていると考えられる。また、馬の授業やセリをとおし、「馬の見方（コンフォメーション）に対して理解し身に付けることができたか」という問いに対し、約9割の生徒が「できた」・「おおよそできた」とし、3年間の馬事学習をとおして、馬の生理生態を理解し、馬に関わる職業にも活かせる人材の育成ができたと考えられる。また、考査後に実施したアンケートには「自分達が育てた馬が認められて嬉しかった」などの意見もあり、今後の軽種馬育成への励みにもなっている。

ると同時に、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせることにつながっていると考える。



(2) 馬産地日高の魅力発信（馬の魅力を高め、魅力発信を行う）

ア 課題解決に向けて

①馬利用と安全な馬づくりに向けた技術向上への取組

馬利用のために必要不可欠な安全な馬づくりのための調教技術の学習を行うことができた。生徒自身がホースマンシップ理論を身に付け、安全な馬づくりのノウハウを習得することで、馬を使った交流学习などを安全に行うことができると9割の生徒が実感している。

授業評価アンケートより

ナチュラルホースマンシップの調教学習により実践的な訓練方法を身につけることができたか（n=25）



安全な馬づくりに向けた実習

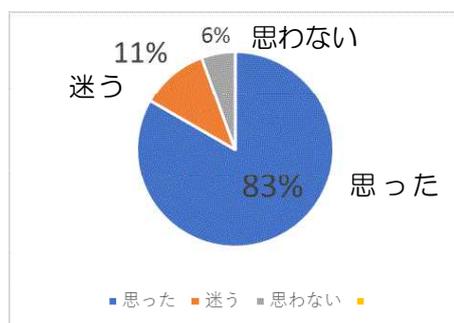
- ・裸馬に乗って安全性を確認したとき感動した。（2年女子）
- ・馬に対する考え方がかなり変わった。（2年女子）
- ・できたとき、馬と通じ合えたと感じた（3年女子）

②小中学生を対象とした馬の学習やイベントを通じて

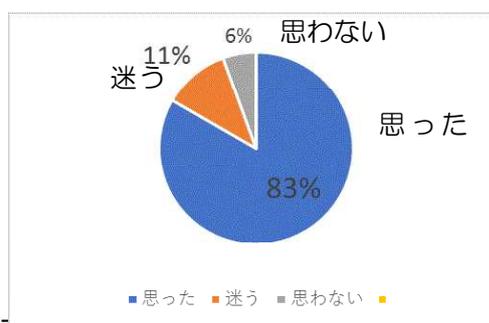
地域の子どもたちに馬の魅力を伝えるために、イベントの企画は生徒が考え、馬イストリゲームや手入れ体験などを実施した。生徒は意欲的に企画を考え、前年度の実施を踏まえて今年度の実施に向けて積極的に改善を目指し取り組んでいた。対象とした小中学生からは「静内農業高校に通ってみたい」、「馬の仕事がしたい」という声が多く聞くことができた。

小中学生対象アンケートより

静内農業高校に通ってみたいと思いましたか（n=18）



今回の馬の学習を通して馬のお仕事がしたいと思いましたか（n=18）



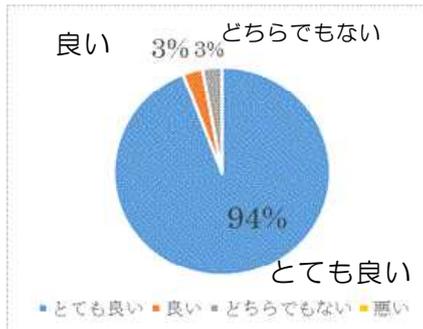
イ 生徒への成果

馬の調教技術の学習をとおして、約9割の生徒が「ホースマンシップ理論を身に付け、実践的な訓練方法も身に付けることができた」と回答している。

また、馬に携わる職種に調査・取材をし、馬の仕事に必要な技術・資質がわかる達成表『ホースマン・レベルアップ・チャート』を独自に作成した。馬産業従事者までの客観的な指標として、馬の生産現場でも活用できると牧場主の方からも好評を得ることができ、職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせることにつながったと考える。

小中学生対象アンケートより

ホースマンレベルアップチャートはわかりやすかったですか (n=34)



ホースマン・レベルアップ・チャートを取り入れた馬の学習

6 課題と今後の取組

3年間のOPENプロジェクトの取組をとおして、地域の関係機関との協力体制を構築し、生徒の職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けさせることができたが、依然として後継者や馬産業従事者の不足が課題として挙げられている。地域みらい連携会議で推進員の方からは「この課題はすぐに解決できるものではないのでぜひ継続してほしい」との助言もいただいている。

今後は地域との連携体制を維持し、生徒がもつ課題発見、課題解決の視点を活かした馬育成に関するノウハウの「定着や子どもから大人まで理解できる馬産業従事者のマニュアル配布等の地域還元を行い、取組を継続・発展させる必要がある。また、新ひだか町の馬の魅力発信を継続して行うとともに、より一層子どもたちの学びと地域創生の核となる「魅力ある学校」づくりに取り組んでいく。

